

主な目標及び「遅れ」が生じている目標の状況

■第1節 結婚・妊娠・出産を切れ目なく支援

番号	成果指標・目標	目標数値				進捗状況
		実施状況 (平成29年度) A	目標 (平成29年度) B	目標に向けた達成率 A/B	H31年度末	
2	ひろしま出会いサポートセンター登録者数（累計）	10,904人	10,800人	101.0%	20,000人	順調
3	女性（25歳～39歳）の有配偶者率	H33.12判明 (H27:59.0%)	—	—	63.2%	その他
4	男性（25歳～39歳）の有配偶者率	H33.12判明 (H27:49.8%)	—	—	53.5%	その他
5	新規高等学校卒業生就職率	99.1%	常に 全国平均以上 (全国平均98.1%)	101.0%	常に 全国平均以上	順調
6	新規高等学校卒業生の3年以内離職率	36.9% (H26.3卒)	現状値より 改善 (34.4%)	—	常に全国平均 以下※ (H26.3卒:40.6%)	順調
18	死亡率等 (乳児・幼児・小児の死亡率)	H30.9判明 H28 乳児 1.9% 幼児 0.48% 小児 0.21%	常に全国平均 を下回る H28 全国平均 乳児 2.1% 幼児 0.54% 小児 0.23%	—	直近5年間での 平均値を全国平均 値以下で維持 ※	概ね順調
7	ひろしましごと館相談コーナー来所者（若年者）の就職者数	64人	152人	42.1%	152人	遅れ
8	夫婦で共に不妊検査を受けた数	553組	1,103組	50.1%	1,216組	遅れ

※中間見直しにより目標を見直した。

【「遅れ」に係る今後の方針】

目標	ひろしましごと館 ^{※1} 相談コーナー来所者（若年者）の就職者数〔雇用労働政策課〕
目標設定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・未就職卒業生など就業に課題を抱える若者に対し、ワンストップできめ細やかな支援を行い、就業者の増加を図る。 ・計画策定時の直近実績値と同程度の就職者数（152人）を毎年度の目標として設定し、計画期間中に累計760人の就職を目指している。
「遅れ」の理由	<p>有効求人倍率は計画策定以降、毎年度上昇しており、全国よりも高い水準で推移している。これは有効求職者数、特に若年求職者の減少がその要因の一つとなっており、こうした雇用状況の改善の影響により「ひろしましごと館」の来所者数も減少傾向にある。</p> <p>〔H29年度主な取組〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若年者支援のための「若年者就業相談コーナー」の運営
今後の方針	<p>雇用状況が改善しても、自分のやりたいことが分からない、就職に対する準備ができていないなど、就職に課題を抱える一定層の若者がいることから、そのような若者を着実に就職につなげるような取組を進める。</p> <p>〔主な取組〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県の広報媒体（県政情報ラック、Twitter、Facebook等）を活用した「ひろしましごと館」のさらなる広報の強化。 ・ハローワークの窓口職員用に、「ひろしましごと館」へ誘導してもらいたい支援者を具体的に示したチラシを作成し、ハローワークでの対応が難しい相談者を「ひろしましごと館」へ誘導してもらうよう依頼。 ・応募する会社の探し方や応募書類の書き方など就職活動に必要な基本を学ぶための「就活トライ」を土曜日に開催。

※1 国と連携しキャリアコンサルティングや職業相談・情報提供等をワンストップで提供し、就業者を支援する施設。

目標	夫婦で共に不妊検査を受けた数〔子育て・少子化対策課〕
目標設定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・不妊の原因の約半数は男性にあることを踏まえ、妊娠の希望を叶えるため夫婦そろっての不妊検査受診件数が増加することが必要と考えた。 ・当初の目標数値については、平成27年度から助成を開始するのに合わせ、前年度の男性の不妊検査・治療受診件数に潜在的な対象者数を加え、1,000件とした。
「遅れ」の理由	<p>申請件数は毎年増加傾向にあり、目標との乖離は縮小しているが、不妊検査を受ける必要性や助成制度の周知不足により遅れが生じた。</p> <p>〔H29年度主な取組〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不妊治療支援事業（不妊治療費の助成及び不妊専門相談センターの運営）
今後の方針	<p>特に男性の「不妊」に対する理解の促進と検査を行う必要性を訴求する広報の強化と、県の助成事業利用者からの意見を踏まえた更なる利用促進や早期に夫婦がそろって検査を受ける機運を醸成する。</p> <p>〔主な取組〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県の広報媒体（HP、ツイッター等）を活用したさらなる広報の強化。 ・妊活や不妊に関する県民の意識や現状を把握するWEBアンケート調査の実施。 ・薬局、医療機関へのポスター、チラシの配架。 ・妊活応援セミナー及び個別相談会の実施。 ・不妊専門相談センターにおける不妊治療等に関する相談対応。

■第2節 安心できる保育・子育ての促進

番号	成果指標・目標	目標数値				進捗状況
		実施状況 (平成29年度) A	目標 (平成29年度) B	目標に向けた達成率 A/B	H31年度末	
21	いつでも安心して子供を預けて働くことが出来る環境が整っていると思う人の割合	57.6%	65.0%	88.6%	70.0%	やや遅れ
25	子育てに楽しみや喜び・生きがいを感じる人の割合	71.9%	84.0%	85.6%	88.0%	やや遅れ
24	待機児童数	206人 (H30.4)	0人 (H30.4)	—	0人 (H32.4)	遅れ
33	広島県こども夢基金への応募数	9件	16件	56.3%	20件	遅れ

【「遅れ」に係る今後の方針】

目標	待機児童数〔安心保育推進課〕
目標設定の考え方	いつでも安心して子供を預けて働くことが出来る環境を整えるため、待機児童の解消を目指している。
「遅れ」の理由	<p>保育の受け皿の拡大に取り組み、保育所等への入所児童数は着実に増加しているものの、保育ニーズが受入枠を上回っていることや深刻な保育士不足により、目標達成に遅れが生じた。さらに、H31年10月から幼児教育・保育の無償化が全面実施されることに伴い、保育ニーズの更なる増加が予想される。</p> <p>〔H29年度主な取組〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所・認定こども園・小規模保育所等整備補助 ・保育士人材確保事業（求職者と求人者のマッチング及び研修、合同就職説明会） ・保育コンシェルジュ配置事業（保護者の働き方等に合った保育サービスを紹介）など
今後の方針	<p>これまでの取組に加え、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待機児童の大半を占める1・2歳児の受入を促進するため、1・2歳児を積極的に受け入れている保育所等への補助を行う。（1・2歳児受入促進事業） ・保育士の入職率・離職率の改善を図るため、勤務労働条件のみならず、職場の雰囲気などの見える化を図ることにより、保育所全体の勤務労働条件等を向上させる取組を実施する。（魅力ある保育所づくり推進事業） ・保育士キャリアアップ研修の質の強化を図るとともに、私立保育所においてキャリアパスを構築する。（保育士キャリアアップ研修事業） <p>などに取り組む。</p>

目標	広島県子ども夢基金※2への応募数〔生涯学習課〕
目標設定の考え方	意欲のある若者のチャレンジを応援し、盛り上げることで子供の体験を促す活動の充実を図ることとし、計画策定時から倍増するよう目標を設定。
「遅れ」の理由	市町、大学、高等学校等にポスター・チラシを配付し周知してきたが、応募数は横ばいであり、更なる周知が必要と考えている。 〔H29年度主な取組〕 ・活動事例の紹介 ・応募のない大学への働きかけ など
今後の方針	今後は、これまでのポスター・チラシの配付に加え、県の広報ツール（Twitter等）を活用し、さらに新規団体の応募増加に取り組む。

※2 県民からの寄附を基に、子供たちの体験活動を企画・実施する若者に対して助成する基金。

■第3節 女性の働きやすさ日本一への挑戦

番号	成果指標・目標	目標数値				進捗状況
		実施状況 (平成29年度) A	目標 (平成29年度) B	目標に向けた達成率 A/B	H31年度末	
40	女性（25～44歳）の就業率	— (H27:72.3%)	—	—	77.5% (H32)	その他
42	男性の育児休業取得率	5.3%	10.0%	53.0%	12.0%	やや遅れ
43	一般事業主行動計画（従業員数31人以上）の策定率	52.6%	64.0%	82.2%	80.0%	やや遅れ

■第4節 配慮が必要な子供を支援

番号	成果指標・目標	目標数値				進捗状況
		実施状況 (平成29年度) A	目標 (平成29年度) B	目標に向けた達成率 A/B	H31年度末	
45	児童虐待通告義務の認知度	73.2%	83.0%	88.2%	85.0%	概ね順調
48	施設入所児童のうち、小規模グループケアで生活する児童の割合	26.1%	32.0%	81.6%	49.0%	やや遅れ
56	特別支援学校卒業者の就職率向上	35.0% (H30.3卒)	35.0%	100.0%	38.0%	順調
53	母子・父子福祉団体への業務発注	県発注件数 2件 発注実施市町数 1市町	20件以上 13市町以上	10.0% 7.6%	30件以上 全20市町	遅れ

【「遅れ」に係る今後の方針】

目標	母子・父子福祉団体への業務発注〔こども家庭課〕
目標設定の考え方	ひとり親家庭の仕事と家庭生活の安定を促進する様々な取組に加え、行政の直接的な経済的支援の充実を図ることとし、計画策定時から1年で5件ずつ増加するよう目標を設定。
「遅れ」の理由	制度の周知不足や対象業務がデータ入力やテープ起こし等に限定されていることにより、目標達成に遅れが生じた。 〔H29年度主な取組〕 ・県発注分：全庁文書箱などで周知 ・市町発注分：会議など機会を捉え周知
今後の方針	発注数の増加に向け、次のとおり取り組む。 ・県発注分：全庁掲示板などにより、周知を図るほか、個別に働きかける。 ・市町発注分：市町に対し、訪問時、会議開催時など様々な機会をとらえ個別に働きかけて、周知を図る。

■第5節 たくましく健やかに生きる力をもつ子供たちの育成

番号	成果指標・目標	目標数値				進捗状況
		実施状況 (平成29年度) A	目標 (平成29年度) B	目標に向けた達成率 A/B	H31年度末	
58	「遊び 学び 育つひろしまっ子！」推進プランに定める5つの力が育まれている年長児の割合	75.4%	74.0%	101.9%	78.0%	順調
72	全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の全国トップ県とのポイント差	小5男子 ▲1.45 小5女子 ▲2.22 中2男子 ▲2.02 中2女子 ▲2.41 (H28 小5男子 ▲1.25 小5女子 ▲1.46 中2男子 ▲1.94 中2女子 ▲2.50)	全国一位	—	全国一位 (ポイント差ゼロ)	やや遅れ
77	暴力行為発生件数(公立小・中・高等学校)	小学校 3.9件 中学校 9.2件 高等学校 2.9件	前年度件数以下 (H28 小学校 2.9件 中学校 8.8件 高等学校 2.6件)	—	前年度件数以下	遅れ

【「遅れ」に係る今後の方針】

目標	暴力行為発生件数(公立小・中・高等学校)〔豊かな心育成課〕
目標設定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・暴力行為をはじめとする問題行動についての現状、背景、課題を正しく把握し、生徒指導体制を確立するとともに、「社会において許されない行為は、学校においても許されない」という姿勢をもち児童生徒の規範意識を育てる。 ・取組の効果が把握できるよう、「前年度件数以下」を目指している。
「遅れ」の理由	個に応じた支援が十分に行えていないことや校長のリーダーシップが十分に発揮できておらず指導方針が明確になっていないことなどにより、特定の児童生徒が暴力行為を繰り返している状況がある。また、小さな暴力行為であっても、組織としてその状況を適切に把握できる体制づくりが進んだことで、暴力行為の件数が増加した状況もあり、前年度を上回り、目標達成に遅れが生じた。 〔H29年度主な取組〕 <ul style="list-style-type: none"> ・学校への人的支援 ・指導主事による定期的な学校訪問 ・特に生徒指導上の課題の大きい学校に対するスクールサポーター派遣 ・スクールソーシャルワーカー活用事業 など
今後の方針	問題行動の未然防止に向け、次のとおり取り組む。 〔主な取組〕 <ul style="list-style-type: none"> ・「気になる生徒の支援につなげるチェックリスト」を活用した個別の指導計画の作成等の取組を推進し、児童生徒の特性に合わせた指導及び支援の充実 ・ソーシャルスキルトレーニング等のプログラムの充実により、他者との関わり方や望ましいコミュニケーションの在り方等のスキルを児童生徒に身に付けさせる。